

幹部へのインタビュー



澤口 浩司 さわぐち こうじ 人材開発統括官付人材開発政策担当参事官

これまでの経歴

- 平成4年 入省
地方研修:大阪
ハローワーク窓口での相談業務や職業紹介業務は、とてもやりがいのある仕事だった。
- 平成11年 職業安定局庶務課管理係長
省庁再編(労働省→厚生労働省)、都道府県労働局の組織立上げ。大変だった。
- 平成25年 神奈川労働局職業安定部長
二度目の地方管理者。“現場視点”に頭を切り替えて、現場での成果を上げることが大事な仕事。

- 令和元年 地域就労支援室長
障害者雇用促進法の改正への対応。法改正が終わったら、緊急で感染症の対応へ。
- 令和3年 職業安定局首席職業指導官
ハローワークの職業紹介業務等を担当。現場目線で仕事することの大事さを感じる。
- 令和5年 茨城労働局長
地方局のトップとして、労働基準行政・雇用環境・均等行政・職業安定行政全てを見ていく仕事は新鮮だった。
- 令和7年 現職
リスクリングなどの人材育成・人材開発政策の調整・とりまとめ役を担当。

コロナ禍での緊急対応

コロナ禍の中で我が国においても感染拡大防止等のため、事業者への休業要請等がなされ、商店街等から人の姿が見えなくなりました。この時、緊急で「失業を増やさないための対策一雇用維持対策」に取り組むこととなりました。私が担当したのは、コロナ禍で解雇・失業という事態にならないよう、事業主に“休業”というかたちで雇用維持してもらうために、雇用調整助成金の“コロナ特例措置”を

設けて、“休業対応への支援”を行うことでした。いつ感染症が終わるのか、出口が見えない中で、現場(労働局)が懸命に雇用調整助成金の支給処理を行い、あの難局を乗り越えたことは忘れがたい記憶です(「助成金のおかげで助かった!」との事業主の声のために頑張っています!)という現場の皆さんの言葉は忘れられません…。)

Career Story

Q1 厚生労働省の人間科学職について教えてください。

厚生労働省は「人に関わる仕事」をしています。その中で人間科学職は、特に「働く」場面に関わる「政策や事業の企画・立案」から、それらの「政策等の実行・運用」、都道府県労働局やハローワークといった現場における「リーダー役(管理職)」と、幅広い業務を経験します(これは労働局・ハローワークといった現場を直轄で持っている厚生労働省だからこそできる仕事です。)

Q2 人間科学職の魅力を教えてください。

色々な仕事を経験することができます。法律改正等により新しい制度をつくる、または制度・政策を見直していくといった「企画の仕事」から、こうした制度や政策を実際に動かす運用の仕方を定めて、現場(労働局・ハローワーク)に指示をする、あるいは、現場のリーダーとして、自ら、制度や事業自体を「動かしていく仕事」がある、というのは「人間科学職ならではの魅力」だと思います。

Q3 人間科学職の仕事の一つに「政策の企画立案」ということがありますが、どのように行われるのですか。

政策や具体的な支援策などを考える時には、例えば、若年者対策であれば若年者の方々、障害者対策であれば障害のある方々が何を求めているのか、ということが原点です。対象となる方々のニーズ、必要な支援が何かといったことを把握することが重要です。この点でも厚生労働省がハローワーク等の直轄の現場を持っているメリットが発揮されます。現場を通じて把握した「ニーズ」や「人々の声」をベースにして政策や事業を考えます。

Message 受験生へのメッセージ

我々の仕事は、「雇用」「人」に関わる仕事ですが、世の中の社会状況や経済情勢など、幅広い分野に触れ、そして色々なことを吸収することができる仕事です。仕事の中で自分自身としても色々な刺激を感じながら、研鑽を積み、経験値を上げていくことができる仕事だと思います。



建設パトロール



最低賃金審議会